

# カガヤキ

No.47(2019.7.1 刊行)、広報委員会編集

県立図書館発行

禁複写転載©広報委員会

## 特集 児童サービスボランティア

桜井 淳

(広報ボランティア)

大岡智子

(児童サービスボランティア)

羽石康弘

(県立図書館普及課)

### はじめに

県立図書館ボランティアグループに対する現場調査シリーズは、まず、三の丸書庫グループから始まり、次に、図書修理グループ、予定していた資料配架グループを後回しにし、児童サービスグループの順番になった。

順番を決める要因は、原稿のまとめやすさ、オリジナリティの出しやすさ、グループの人数、活動実績などである。児童サービスグループは、各グループの中で、最大人数のグループであり、オリジナリティの出しやすさには、工夫を要するが、うまく、全体を把握し、現状分析を試みたい。

### 保育園と幼稚園の相違

児童年齢は、分野によって異なるものの、法令的には、18歳以下と定められている。

保育園(監督官庁厚労省、児童福祉法、対象年齢ゼロ歳児から1-2歳児と3-4歳児にクラス分け、保育士免許)の典型的な時間割は、7:00-登園、8:00-課題活動・散歩・クラス活動、12:00-昼食・昼寝、15:00-起床・おやつ・自由遊び、16:00-閉園。

幼稚園(監督官庁文科省、学校教育法、対象年齢3-6歳児でクラス分け、幼稚園教諭免許)の典型的な時間割は、8:00-登園・自由遊び、10:00-クラス活動(水泳指導・英語教育・体操など)、12:00-昼食、13:00-自由遊び、14:00-閉園。

児童サービスグループが対象としている年齢範囲は、主に、保育園児と幼稚園児である(県立図書館でも市立図書館でも大差なく、主に0-6歳児)。

児童サービスについて、webで検索し、基本的事項を把握し、なおかつ、問題のありかを的確に把握するため、聞き取り調査(私大文学部英米文学科卒、68歳、男子子供ひとり)を実施した。

### ボランティアへの聞き取り調査

「児童サービスボランティアグループの人数は、現在、55人(女性50人、男性5人)、年齢構成は、40-70歳台であり、60歳台がいちばん多く、最高齢は、女性80歳台である。」

「開催日と時間帯は、県立図書館の休館日の月曜日を除き、毎日、開催しており、午前の班(10:30-11:30)と午後の班(14:00-15:00)に分かれている。」

「児童の男女比と年齢は、男女ともほぼ同数であり、2-3歳である。毎回、数名が参加しているが、本日(2019.6.12)は、少なく、2人であった。」

「児童男女に偏りがある日には、臨機応変に対応し、絵本の内容を変更している。」

「季節ごとに特徴的な内容の絵本を選択しており、いまのように梅雨期であれば、テーマは「つゆ」「カエル」「カタツムリ」「かさ」などである。」

「話の途中で、児童の表情や動作などを見て、そのまま継続して良いか、それとも、リズムに併せて身体を動かした方が良いか、いっしょに歌を歌った方が良いか、児童の好みそうな小道具でいっしょに遊ぶかなど、児童の興味や理解度を常に図りながら進めている。」

「時間が経ち、児童が飽きてくると、気分転換のため、さらに、その場を盛り上げるために、ボランティア同士のコンビネーションと経験により、打ち合わせなしでも、進行内容を自由に変更し、問いかけた



児童サービスボランティアグループ(水曜日午前班、後列右が大図委員長)



ふたりで大きな絵本「おとうさんのおしごと」について問いかける



ボランティアも児童側に入り盛り上げる

り、歌ったり、手を打ったり、自在に対応できる。」

「ひとつの絵本に多くの時間をかけると、児童の関心が徐々に薄れてしまうため、せいぜい、2-5分と短く、その代わりに、10種類くらいの絵本で問いかけるよ

うにしている。一方的に聞かせるのではなく、双方向的に問いかけ、やり取りすることにより、児童の反応や表現力を育てるようになっている。」

「グループのレベルアップと人材養成のため、定期的に、講習会や研修会に参加している。」



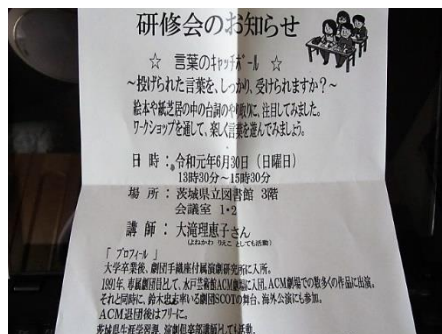
話の合間の気分転換(リズムに乗り身体を動かす)



時間が経って児童が飽きて横になる



話の途中で児童の関心を呼ぶための仕掛け



児童ボランティアグループのレベルアップと人材養成のための研修会への参加

### まとめ(評価、感想)

ボランティアグループによっては、氏名を登録しているだけで、まったく活動していないひとやわずかしかしていないひともあるが、児童サービスグループは、全員が同じくらい熱心に、協力し合い、活動をしているグループである。

実に、浚刺としており、対応も気持ち良く、積極的で、協力的で、表現力があり、アドリブも効く、大変、できの良いグループである。全員、劇団出身者ではないかとさえ感じたほど、表現力が豊かである。

私が想像していたよりも、はるかに、理解力と対応力と表現力に富み、レベルの高さに驚いた。

これまで、三の丸書庫ボランティア、図書修理ボランティア、児童サービスボランティアの現場調査を実施したが、県立図書館ボランティアの人材は、私が考えていた以上に良く、認識を改めた。今回も学ぶべきことの多い取材であった。

## 編集後記

社会科学の研究手法のひとつに「調査的面接法」があります。普通は「聞き取り調査法」と略されます。

「聞き取り調査法」には、構造化面接(structured interview)と非構造化面接(non-structured interview)があります。

構造化面接は、標準化面接(standardized interview)、または、能



第8章「調査面接法」、pp.123-134。

動的面接(active interview)、一方、非構造化面接は、非標準化面接(non-standardized interview)、または、受動的面接(passive interview)と呼ばれることもあります。

今回は構造化面接を実施しました。この手法の特徴は、①異なる事例を対象に、一定の測定法によって、一群の変数を導き出せること、②信頼性の高さか保てること、③質問者の言葉遣いの違いによって生じる問題を回避できることです。

「聞き取り調査」の数は、学部卒論の

場合には、数人、大学院修士論文では、十数人、同博士論文では、二十数人に対して実施すると言われていています(東大大学院総合文化研究科ゼミでの指導教官コメント)。

福島原発事故では、各事故調は、「聞き取り調査」に抛り、事実関係の確認と問題点の把握に努めましたが、各事故調とも、少ない場合でも数百人、多い場合には、千数百人を対象にしました。それは歴史的出来事です。

桜井 淳

### 【補足】桜井淳編集担当通信紙

CY	No	HP 掲載	備考
H27	25	○	再発行優先版 H27年度年次報告
H27	26	○	再発行優先版 H27年度全体会 合報告
H27	27	○	モデル版 ボランティア論
H27	28		テスト版
H27	29		テスト版
H28	30	○	モデル版 ボランティア論
H28	31	○	モデル版 投稿規定作成 編集裁量範囲 掲載までの経緯
H28	32	作成中	ボランティア詳 細データ収集中 特性分析 (多変数解析含む)

H28	33	○	モデル版 通信紙位置づけ
H28	34	手続中	モデル版 図書館論 ボランティア論
H29	35		テスト版
H29	36	手続中	モデル版 ボランティア論
H29	37	手続中	モデル版 ボランティア論
H29	38	○	モデル版 火災避難訓練実 施報告
H30	39	○	モデル版 H29年度年次報 告
H30	40	○	モデル版 県立図書館現状 ボランティア論 未来図書館論
H30	41	○	モデル版 H30年度ボラン ティア研修会実 施報告
H30	42	○	モデル版 上條哲追悼
H31	43	○	モデル版 H30年度年次報 告
R01	44	○	モデル版 ボランティア現 場調査 1
R01	45	○	モデル版 ボランティア現 場調査 2
R01	46	○	モデル版

			新館長への聞き 取り調査
R01	47	○	モデル版 ボランティア現 場調査 3
R01	48	編集中	モデル版 ボランティア現 場調査 4
R01	49	企画中	モデル版 ボランティア論

注 1) 「再発行優先版」とは内容より再発行優先。

注 2) 「モデル版」とは標準化できる良い内容。

注 3) 「テスト版」とは意見を聞くための試験版。

注 4) 社会科学的手法による分析実施中。

注 5) 二大テーマは「各ボランティアグループ活  
動年次報告」と「ボランティア論」。